



# 脳深部刺激療法セミナー

順天堂大学医学部附属順天堂医院 運動障害疾患病態研究・治療講座

対象 神経内科医師  
日時 平成25年7月11日（木曜日）6PM～8PM  
平成25年7月12日（金曜日）8AM～5PM  
参加費 無料  
人数 11日（木）10名 12日（金）2名（先着順）

順天堂大学医学部附属順天堂医院「運動障害疾患病態研究・治療講座」はパーキンソン病等に対する治療普及および脳深部刺激療法に対する知識向上を目的に「脳深部刺激療法セミナー」を開設します。

運動障害疾患に対する治療は近年多様化しています。中でもパーキンソン病を保有する患者数は約13万9千人(\*)とされています。パーキンソン病は薬物治療、手術治療の両面で最も成功を収めている疾患であり、適切な治療を受ける患者様の平均余命は健常人と遜色のないところまで向上しています。しかし、多くの患者様のQOLを見れば、罹病期間の大半を通じて低い状態に甘んじているのが現状です。

パーキンソン病治療は大きくドパミン製剤やドパミン受容体作動薬等に代表される薬物治療と、機能的脳外科手術による治療に分類されます。発症当初は薬物治療による治療により症状の改善をもたらしますが、病期の進行に伴い薬物治療によるコントロールが困難になることが多く、特に薬物の効果持続時間が短くなることにより日常生活を制限することになるWearing Off現象が生じます。これらにより生じる不随意運動には、脳深部刺激療法が劇的な効果をもたらすことが知られています。これらは各々の症状を的確に把握し対処する必要がありますが、短い診療時間では見逃されたり、正確な評価を受けずに経過する症状が多いのが現状です。これらの治療は診療科を超えた集学的なアプローチで行われる必要があり、薬物治療はもちろん、脳深部刺激療法に代表される手術治療やリハビリテーション等は今後ますます重要な位置を占めるようになることが予想されます。

「脳深部刺激療法セミナー」では、パーキンソン病に神経内科及び脳神経外科の両方の観点からパーキンソン病を集学的にアプローチし、患者のQOLを向上させるかなどのノウハウを短期間で学ぶことができます。当セミナーは当院・脳神経内科教授である服部信孝が中心となり、下泰司准教授及び梅村淳准教授が当たります

順天堂大学医学部附属順天堂医院は、国内最多のパーキンソン病患者様の治療を行ってきており、脳深部刺激療法等の手術治療を定期的実施するなど、国内における運動障害疾患治療の中心的臨床施設です。また、国内で唯一、パーキンソン病関連で世界的に引用された論文Top80に入る研究結果を報告（4論文）するなど、新規治療開発から基礎実験まで積極的に取り組んできました。

## トレーニングコース概要

場所: 順天堂大学医学部 10号館 8F 803

2013年7月11日（木曜日）18:00～20:00

- ・PDに対する（最適な）薬物療法/術前の患者教育
- ・DBSの適応と効果

講師 順天堂大学医学部 脳神経内科

運動障害疾患病態研究・治療講座 准教授 下 泰司

2013年7月12日（金曜日）8:00～17:00

- ・手術の実際：～手術手技, Complication～
- ・術後調整：  
①刺激調整のPoint ②薬物調整のPoint

講師 順天堂大学医学部 脳神経外科/脳神経内科

運動障害疾患病態研究・治療講座 准教授 梅村 淳

運動障害疾患病態研究・治療講座 准教授 下 泰司

## 申し込み

Email: yshimo@juntendo.ac.jp

Tel: 03-3813-3111（担当医師:下 泰司）